１．　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073600308		
法人名	社会福祉法人　豊資会		
事業所名	グループホーム花梨		
所在地	福岡県古賀市花見南2丁目14－15 （電　話）092-940-7203		
自己評価作成日	平成　27　年　11　月　22　日	評価結果確定日	平成　28　年　2　月　3　日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ひとり一人の思いを大切に尊厳ある生活の継続を支える」の理念の下、実践の指針としてスタッフ全員で介護１０か条を定めている。認知症であっても人生の先輩であること、感情は最後まで残ることを理解した支援を行なっている。また、公文学習にも取り組んでおり、非薬物療法による認知症の進行防止にも力を入れている。介護予防の観点からは、本人の力を活かす支援を心がけ、過剰な介護にならないように注意している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町３－１－７
訪問調査日	平成　27　年　12　月　11　日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理事長の自らの家族が利用したいグループホームをつくりたいと言うコンセプトのもとに開設され、独創的な取り組みが行われている。公文式学習法を取り入れ二名の学習療法士を養成して薬物を使用せずに認知症状を遅らせる試みが行われ成果を出している。管理者はじめスタッフも進取の気性に富み、連携がとれている。その結果として利用者と接する時間が多く取れ、介護の質が高まっている。母体法人が病院であり、24時間の医療サポートが得られ、ターミナルへの対応がすぐれている。

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を実践する手段として、介護10か条を定めている。申し送り時に唱和することで、常に意識して理念に基づいた行動を取れるようにしている。	事業所の理念の骨子となる介護10ヶ条の第3に地域密着の視点を入れ、毎日申し送り時に唱和している。必要に応じて管理者、リーダー、ベテラン職員が現場において理念を生かす様に随時職員を指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービスと合同で、餅つきやそうめん流しの行事を開催している。地域の方の参加も呼びかけ、交流を図っている。	事業所便りを運営推進会議の案内に同封している。近隣の中学校の職場体験を通じての交流や地域の保育所への交流も積極的に行われている。地域住民もミカンなどを持って事業所を訪問している。利用者の散歩時には花を頂くこともある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症についての理解を深めていただけるように質疑応答を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に１回運営推進会議を開催しており、会議では利用者の状況やサービスの実施について報告、話し合いを行なっている。会議を行事の日に合わせて、行事にも参加していただけるよう呼びかけている。	運営推進会議は、二か月に一度開催されている。利用者家族、地域住民代表、介護支援課職員、理事長等の参加がある。利用者サービスや評価への取り組みの報告を行っている。委員から提案された太極拳教室や夏祭りでの浴衣の着用を取り入れ実践している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が運営推進委員として会議に参加している。会議では実情報告やサービスの取り組みを報告し、協力関係を築くように取り組んでいる。	月に一度定期的に管理者もしくはリーダーが、行政担当課に出向いて現状報告をかねて相談を行っている。また、電話での連絡も必要に応じて行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルの基、勉強会を行ない、具体的な行為を検討することで身体拘束意をしないケアに取り組んでいる。	日中居室、玄関は施錠をしていない。全員参加の内部研修は月一回の頻度で行われ、身体拘束をしないケアの実践も学習している。外部への研修も行われ、伝達研修も行われている。	

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を含む研修を実施している。具体的な行為を検討することで画虐待のないケアに取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を実施し、理解し、必要性を求めてきた利用者や家族に申し込みの手続き方法等、橋渡しできる体制である。	権利擁護に関する制度については、契約時に説明を行っている。全員参加で内部研修が行われており、テキスト、研修記録、報告書等も有している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、不安や疑問点の質問を受け、十分な説明を行ない、理解を得ている。改定時には早急に説明する場を設けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話等で家族の要望を聴いている。運営推進会議に家族にも参加していただき、意見があれば運営に反映させている。	管理者、職員と利用者、利用者家族との間に垣根はなく意見の交換が出来ている。外出と利用者の好きなものを食べる取り組みを家族に提案され、二つをセットにして運営に取り入れている。また、内服薬の関係で飲酒が出来ない利用者にも要望によりノンアルコールビールを出している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に１度、職員会議を開催し、意見を出し合っている。要望や提案は運営に反映している。	職員の意見を記載する用紙をミーティング前に配布して全職員の意見を提出させている。利用者の起床時間を把握してカーテンを開けることや花見に弁当を付ける取り組み、夜勤時の離床センサーの反応音を個別に設定して離床者を判別して介護の効率をアップさせたりと職員の意見を反映して支援を行っている。。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの現状把握について能力開発カードを活用している。自己啓発目標を設定し、やりがいを持って職務に当たれる環境となっている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用時は制限を設けておらず、働く職員が生き生きと楽しく働ける職場環境を目指している。	男女、年齢幅広い職員が勤めている。60歳定年であるが、希望すれば一年ごとの契約延長も可能である。教育訓練についても必要な研修等には交通費が支給され、、公務扱いとしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳を尊重することを理念に掲げており、勉強会で教育、啓発活動に取り組んでいる。	年一回の外部研修が年間研修計画に織り込まれている。全員参加の内部研修や外部研修の伝達研修もなされており、記録等もファイルされている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に参加しスキルアップを図るようにしている。また研修に参加後は伝達講習を行ない、職員全体で学習し、学習内容を現場に活かせるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、勉強会や交流の機会の場がある。行政とのネットワークもあり、各種研修に参加している。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、本人が困っていることや要望等を時間をかけて聴くことで、信頼関係が構築できるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談で家族の困っていることや要望を時間をかけて聴くことで、信頼関係を築けるように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望や見学時に、本人や家族の希望を踏まえ、必要としている支援を見極め、他のサービス利用を含めた対応をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かしながら、入居者様と家事等を協力しあいながら生活するように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が参加できる行事を多く企画し、参加していただいている。２４時間いつでも面会できることから、本人と家族の絆を大切に、共に支えていく関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の要望で、家に帰りたいが、家の中に入ることができない時など、一緒に付き添い、帰宅願望を叶えること等の支援に努めている。	利用者の馴染みの場所や人について管理者、職員共に把握している。知人の訪問や年賀状、暑中見舞いの作成、電話の取り次ぎも行われている。階下のデイサービスの催しであるコーラス、オカリナ演奏への参加もして、地域とのつながりを保つように心掛けている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の悪い方もおられるが、スタッフが間に入ることで孤立せずに利用者同士が穏やかに関わり合えるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へも必要に応じて連絡をとり、その後の様子を伺うなど心がけている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中から思いや意向を時間を掛け聞き取っている。意向の表出が困難な方に関してはアセスメント、生活暦等を見直している。ご家族様とも相談しながら出来るだけ本人様の思いに近づく事が出来るよう努力している。	残存能力の発見、思いや意向を把握する為に時系列で利用者の行動を記録してデータを蓄積している。そのデータをミーティング時等に全職員で評価検討を加えて個々の意思を把握し、良質な介護を目指している。利用者とよく会話ができるように声掛けをしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦、環境、サービス利用の経過等を把握するようにしている。センター方式を用い、結果を記録に残すようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式により、定期的に現状把握を行なっている。状態変化があった際には記録を残したり、申し送り等で把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、看護師等関係者それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	普段の生活記録や職員から個別・具体的な課題・情報を集めるとともに、家族には必ず会って希望・要望を聞き取り、毎月のカンファレンスで具体的な計画作成に反映させている。主治医や訪問看護師の意見も介護計画に反映させている。利用者の状態変化に合わせその都度見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、ケアの実践、結果を記入することで情報を共有し、介護計画の評価時に活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、変化するニーズに柔軟に対応するよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方による紙芝居や併設しているデイサービスのイベントに参加等、豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日の医療連携体制を確立し、利用者の健康管理に十分配慮している。また、本人や家族の希望を大切にし、適切な治療が受けられるように関係を築いている。	利用者や家族の希望を優先して、希望する医療機関に家族が付き添えない時には、職員が付き添い、両者の連絡体制も出来ている。協力病院は24時間対応の所で、近くに立地しており緊急時にも対応できる。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の特変等を記録に残し、訪問看護ステーションの看護師も閲覧できるようにしている。看護師来所時には、報告連絡相談を蜜に行ない、情報を共有している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、地域連携室を中心に、情報交換を蜜に行なうようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時の対応について書面にて本人・家族の意向を確認している。状態変化がある時は、意向に変化がないかの確認を行なっている。終末期には、医療関係者と共にチームを組んで、本人や家族を支援するように取り組んでいる。	看取りの指針マニュアルがあり、入所時・状態変化があった時に本人・家族の意向を確認している。主治医の判断を家族に説明するとともに、利用者や・家族と話し合い、家族の気持ちに寄りそう支援を行っている。職員が本人・家族の意向を共有し尊厳ある最期を迎えるための支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が実践力を身に付けられるように、定期的に研修会を開き、応急手当や初期対応の訓練を重ねている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回に加え、夜間想定の避難訓練を実施してい。近所の方や、家族参加していただき、年に1度消防士に訓練状況を見てもらい、改善点の指摘を依頼している。	年2回の避難訓練のほか、年1回の夜間想定の訓練を行っている。 また運営推進委員会開催時に消防署を呼んで、避難訓練・初期消火訓練を行うとともに、消防署からの最新情報の提供を受ける等、防災意識の向上を図る工夫をしている。事業所内に非常食・飲料水・パット類などが備蓄されている。	
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声かけやケアの実践を行なっている。	尊厳ある対応に心掛け、利用者の人権を尊重する支援を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の尊厳を尊重し、思いや希望の表出を促す言葉掛けを行なっている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思で決定できるような声かけを行ない、一人ひとりの生活のペースに合わせて支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時の際は自分で服を選んで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じて盛り付けなどを職員と一緒に行なっている。個人外食などお好きなものを食べ、食事を楽しんで頂く機会も設けている。	利用者の重度化で、できないことが増える中でも、少しでもできることを見つけ作業してもらっている。 おやつ作りを職員と一緒に行ったり、外食デーを設けるなど作る喜び・食べる喜びを味わう機会を設ける工夫をしている。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立による栄養バランスの取れた食事が配色されている。食事量や水分量も記録に残しており、その時々の状態に応じた支援を実施している。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。自身でのケアが困難で支援が必要な方にはスポンジブラシや歯間ブラシ、乾燥防止のスプレーなど、個々それぞれに合わせた口腔ケアを実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の力や排泄パターンを把握している。また、その日の体調等にも気をつけ、出来るだけトイレでの排泄が行なえるよう支援している。	職員がトイレのタイミングを観察・チェックし、それを全職員が共有することでトイレ誘導のタイミングを外さないようにする工夫をしている。また、現場では口頭と文書で情報交換をして情報共有している。カンファレンスでも取り上げて、検討を加えて確認し合っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ステップウェル等の室内で運動出来る物を使用し、便秘の予防に努めている。また。便秘時には牛乳を多く勧めたり腹部をマッサージする等行ない改善に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	基本は週に2.3回ではあるが希望があれが毎日でも入浴できるよう環境を整えている。また、入浴拒否のある方には声掛けに工夫をし、散歩後等に入浴にお誘いするなど、ご本人様のタイミングに合わせて入浴をしていただいている。	希望するときにいつでも入浴できるよう、毎日入浴準備をしている。 入浴拒否の利用者には一緒に入浴したり、散歩の後に「体を温ましょうね」と声掛けして誘導する等の工夫をして入浴を楽しんでもらっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の状態や生活のペースに合わせて休息をしていただいている。		
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が新しく処方されたときは、注意すべき副作用は申し送りにて伝達し、その後の経過についても記録を残すようにしている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の得意な方には漬物作り、書道の得意な方には行事等で書き物の役割を担っていただいている。また、日頃より食後の食器拭き等もしていただいており、ご自分の役割の認識を持たれている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば出かけられるよう、努めている。また、「服を買いたい」や「外食」についてのご希望もご家族、民生委員の協力を得て個別に支援できるよう、努めている。	宗像大社の菊花展見物・古賀神社の初もうで・道の駅への外出など、家族・民生委員などの協力を得て外出支援を行っている。 また利用者の希望で、家族の協力を得て個別外食や買い物を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている利用者がおられ、買い物に行く行事に家族と参加されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節毎にご家族様や、ご親戚の方に手紙を出される等支援している。また、子供様からの贈り物等があった際も、電話や、手紙を出せるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや、廊下にソファを設置し、いつでも落ち着いて一息つける場所を作っている。また、廊下の壁面には季節毎の行事の写真等を貼っており、皆様、嬉しそうに眺められている。	廊下・リビングにソファを置き、いつでも一息つけるよう工夫している。また、季節の花を飾り、利用者の作品や行事の写真を展示するなど明るい雰囲気のしつらえになっている。 家庭的な雰囲気の中で利用者が落ち着いて暮らせるよう工夫されている。	

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者のがいつも座り、馴染んでいる場所がある。リビング、廊下にソファーや椅子を配置し、思い思いに過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の使い慣れた家具や、本人の好みの物に囲まれて居心地良く生活できるように配慮している。使い慣れた食器や家具、仏壇を持ち込まれている方もおられる。	出来るだけ自宅で暮らす状態に近づく様にと、利用者が入居前の使い慣れた家具や好みのものを持ち込んでいる。家具やテーブル以外にも仏壇や使い慣れた食器などを持ち込んでいる利用者もいる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示を馴染みの言葉で表示したり、居室の名札もそれぞれ工夫し、安全に自立した生活ができるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25,26,27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20,40）	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32,33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2,22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない